ユージン・シューメーカー逝く

去る7月18日にユージン・シューメーカーが亡くなった．彼はここ数年，オーストラリアの衝突クレータの調査に年に数回出かけていた．アリス・スプリンタの北西にあるタナミ砂漠を走行中，他の自動車と正面衝突した．同乗していた妻のキャロラインは骨折などの大怪我をして入院したが，安定した状態との事である．

去年の3月26日に発足した国際スペース・ガード財団の理事となった．シューメーカーの努力によって，NASAやESAの支援を得られ始めた矢先の事で，太陽系天体の地球衝突問題に取り組んでいる仲間として非常に残念な事である．今年1月にNASAの惑星部門のヘッドであったユルゲン・ラーヘを亡くしたのに続き，大きな損失である．

シューメーカーは1994年7月に木星に衝突したシューメーカー・レビー第9彗星を1993年3月に発見した事で有名である．しかし，この発見は偶然なされたのではなく，1973年よりパロマー山46 cmシュミット望遠鏡を使って継続的に観測しており，32個の彗星，番号のついた全小惑星の13％をも発見している．そして，地球に近づく小惑星で1996年現在発見されている407個のうち40個を見つけている．

シューメーカーは1928年4月28日にロス・アンゼルスで生まれ，カリフォルニア工科大学で岩石学を学んだ．そして，アメリカ地質調査の仕事を進める中で，アリゾナのバリンジャー・クレータを見て，月のクレータが衝突クレータと考えるようになり，月面図の製作に力を注いだ．そして，宇宙地質学のパイオニアとなり，レンジャー探査機での月面調査を行い，宇宙飛行士としての訓練もした．しかし，内蔵に病気があることが判り，断念せざるを得なかった．1963年からカリフォルニア工科大学地質学教室の教授となった．当時まだ数人の研究者しか言っていなかった天体衝突によるクレータ形成を実証するために，シュミット望遠鏡での観測を始めたのである．1980年にルイーズ・アルバレツとその息子ワルターが6500万年前の小惑星衝突による恐竜絶滅説が出されて以来，それを地質学と天文学の両面から実証する努力を重ねた．そして，1994年のシューメーカー・レビー第9彗星の木星衝突を機に，アメリカ議会の要請で天体の地球衝突に対する方策をレポートする委員長を務めた．そのような活動が広がって国際スペース・ガード財団が発足したのである．

フランス・ベルサイユのレストランで開かれた国際スペース・ガード財団の理事会．右からアンドレア・カルーシ会長（イタリア），ダンカン・スティール（オーストラリア），カリー・ミノーネン（フィンランド），キャロラインとユージン・シューメーカー（アメリカ），ブライアン・マースデン（アメリカ），磯部琇三（日本）．

主にe-mailの交換で行われる理事会では，私達の議論を的確に捉えて，最後の貴重な意見を出してくれることが多かった．昨年6月にベルサイユに6人の理事が集まって十分な議論をした．常にこの問題を真剣に考えてくれた．

1994年7月にシューメーカー・レビー彗星が木星衝突する姿を見ていたシューメーカーが素直に喜んでいた姿を思い出す．人類の未来を純粋に心配し，自身の人生を純粋に楽しんだ人であった気がする．その人を失った私達はやらねばならない事の重要性を強く感じさせられている．

磯部琇三（国立天文台）